

令和元年9月10日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03785

研究課題名(和文)急速に発展するアジアの高等教育における大学国際化評価に関する実証的研究

研究課題名(英文)An empirical research on the evaluation of higher education in rapidly developing Asian countries

研究代表者

新田 功(NITTA, ISAO)

明治大学・政治経済学部・専任教授

研究者番号：30208251

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、この前段階の研究において選定した大学国際化に関する53指標をベースにして、22指標からなる大学国際化指標を構築し、さらに、構築した大学国際化指標を用いてアジア・オセアニアの大学および国内のスーパーグローバル大学の国際化度を調査し、国際化度の現状を明らかにした。これまで多元的かつ総合的な大学国際化指標は構築されることがないため、当研究グループの構築した大学国際化指標は先駆的な業績であると言える。また、本研究ではアジア・オセアニアの111大学の国際化度の現状について多角的な評価を行っており、評価の結果を各大学の国際化の促進に役立てることが可能である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで多元的かつ総合的な大学国際化指標は構築されることがないため、当研究グループの構築した大学国際化指標は先駆的な業績であると言える。また、大学の国際化についても、従来は、世界の大学ランキンを行っている組織(THE、QSランキング等)が外国人学生比率、外国人教員比率などの若干の指標だけで大学の国際化度を評価しようとしてきたが、本研究ではアジア・オセアニアの主要大学の国際化度の現状について多角的な評価を行っており、本研究による評価の結果を各大学の国際化の促進に役立てることが可能である。

研究成果の概要(英文)： Prior to this research, we conducted a survey of Japanese universities selected for the Top Global University Project regarding the importance of indicators for the evaluation of university internationalization and selected 53 indicators. Then, from those 53 indicators, the research team constructed a set of 22 indicators in six dimensions. On the formulation of those 22 indicators, firstly, we carried out an online survey of academic and administrative staff involved with international affairs at major Asian institutions about the importance of those 53 indicators. Secondly, we surveyed researchers and experts on internationalization at Japanese universities. Thirdly, through an analysis of the results of all our surveys and discussion with some of those surveyed researchers and experts, a system of 22 indicators was formulated.

As the final stage of this research, an online survey with those 22 indicators was conducted and collected 111 responses.

研究分野：教育社会学

キーワード：大学国際化指標 アジアの大学国際化度 デルファイ調査

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 高等教育機関の国際化度を、特定の側面にのみ焦点を当て、過度に簡略化して表現しようとする試みが、研究者や学生の国際流動に影響力を持ちつつある (Times Higher Education や Quacquarelli Symonds の世界大学ランキング)。他方、「大学の国際化」を体系的・総合的に評価するための指標体系は未構築である。

(2) 当研究グループは、本研究を開始する以前に、高等教育国際化指標に関する 2 つの研究を実施してきた。

2. 研究の目的

(1) 個々の高等教育機関が自らの機関の国際化度を多角的に評価し、その評価を通じて国際化度を強化するための課題を見出すことに役立つ、国際比較に適した、多角的でしかも扱いやすい高等教育国際化指標を構築することを第 1 の目的とした。

(2) 国際化に関する課題を克服することが、日本をはじめとするアジア各国の主要高等教育機関の国際競争力を高め、ひいてはアジア域内での留学生交流の促進につながると期待されるとの問題意識から、アジアの主要大学の国際化度を明らかにすることを第 2 の目的とした。

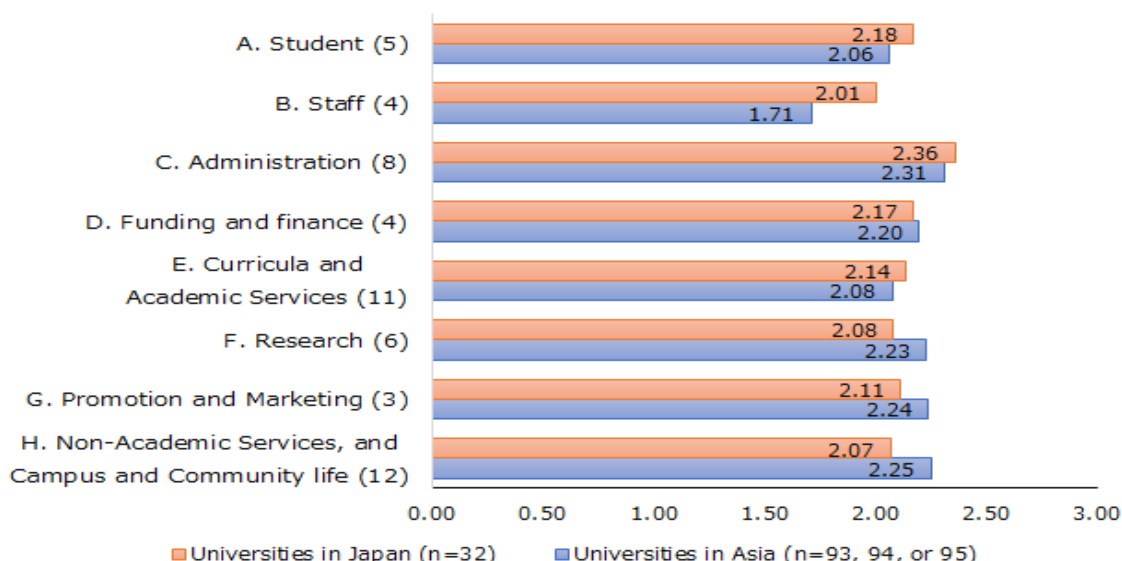
3. 研究の方法

(1) アジア・オセアニアの主要大学の国際業務担当者を対象として、大学国際化に関する 53 指標の重要度に関する web 上でのアンケート調査 (第 1 次オンライン調査) を実施した (回答数 199)。外部から招請した専門家を交えて、この回答を研究グループで精査し、最終的に 22 指標からなる大学国際化指標を構築した。

(2) アジア・オセアニアの主要大学の国際化部門の責任者および国内のスーパーグローバル大学 (以下、SGU 大学) の国際化部門の責任者を対象として、上記の大学国際化指標を用いて各大学の国際化度に関して web 上でアンケート調査 (第 2 次オンライン調査) を実施し、調査によって得られた回答 (国内 31、国外 80) を分析した。

4. 研究成果

(1) 53 の大学国際化指標の重要度に関する第 1 次オンライン調査によって次のことが明らかとなった。次図は 53 指標を 8 つの分野に区分して集計した結果を、国内の SGU 大学 32 校の国際化部門の担当者からの回答とアジア・オセアニア地域の 95 大学の同部門担当者からの回答に分けて示したものである。この図に示されているように、大学国際化に関して最も重視されているのが、組織運営 (administration) の領域に含まれる指標であり、具体的には、国際化の戦略が明確にされていること、国際化を推進するための専門的組織が設置されていることが最重要視されていることが明らかとなった。これに次いで、「学生」の領域と「資金と財政」の領域の指標の重要性が高いが、「学生」の領域に関しては、SGU 大学と国外の大学では個別指標に対する評価が異なる。すなわち、SGU 大学からの回答が一般的に留学生 (送出しと受入れ) の相対的な割合を重要視するのに対し、国外の大学からの回答は交換留学先の情報の質と量の充実を重視している。他方、「資金と財政」の領域では、SGU 大学、国外の大学ともに国際化資金の戦略的確保を重視する点で一致している。上記 3 領域以外の領域で SGU 大学と国外の大学の評価



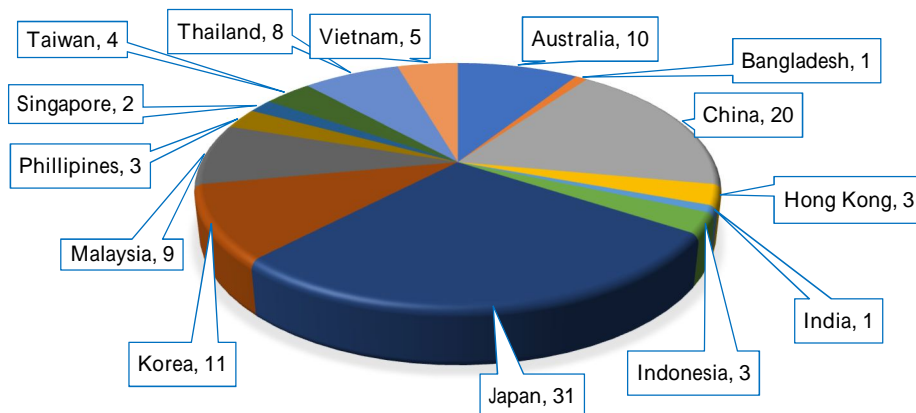
の異なる点として、以下のことを指摘できる。SGU 大学は在籍教員の研究、国際化のマーケティング、勉学以外の学生サービスを重要視しているのに対して外国の大学はこれらをそれほど重視していない。外国人スタッフの割合を外国の大学は SGU 大学よりも重要視している。

(2) 上記のアジア・オセアニア地域の大学の国際化部門の専門家に対するアンケート調査、さらには国内の研究者を対象としたアンケート調査ならびに聞き取りの成果を踏まえて、当研究グループが構築した大学国際化指標の概要は以下の通りである。

< 大学国際化指標体系と個別指標 >

- A . 国際化戦略
 - 1 全学レベルの国際化戦略の明確さ
 - 2 国際化のために提供する機能・サービス
 - 3 国際的なネットワークへの参加
 - 4 国際的な広報活動
- B . 国際化スタッフと学生の特性
 - 5 学位取得者に占める（受入れ）留学生の割合
 - 6 1年未満の（受入れ）留学生の割合
 - 7 前年度の卒業生のうち海外留学した学生の割合
- C . 教育と学習
 - 8 外国語で行われる授業の割合（語学除く）
 - 9 前年度に提供した国際共同学位の数
 - 10 海外派遣学生に対する勉学上の支援
 - 11 海外派遣学生が外国で取得した単位の認定
 - 12 web サイトにおいて外国語で提供している情報
- D . 学生サービス
 - 13 文化的に多様な学生に対する施設やサービスの提供
 - 14 受入れ留学生に到着前に提供する情報
 - 15 受入れ留学生に到着直後にオリエンテーションで提供する情報
 - 16 受入れ留学生に在学中に提供するサービス
 - 17 受入れ留学生と国内学生の交流促進のためのサービス
 - 18 海外派遣学生に web サイトで提供している情報
- E . 研究
 - 19 在籍教員による国際的刊行物出版点数と在籍教員数との割合
 - 20 在籍教員による刊行物に占める、外国教員との共同執筆で学術誌に掲載された論文の割合
 - 21 在籍教員の論文の被引用回数
- F . 質保証
 - 22 国際化の質保証のための手法

(3) 上記の大学国際化指標を用いて、アジア・オセアニアの大学と SGU 大学の国際化部門の責任者を対象として、第 2 次オンライン調査を行って各大学の国際化度を問い合わせたところ、アジア・オセアニアの 80 大学と 31 の SGU 大学から回答があった（回答の国別内訳は次図の通り）。集計結果から明らかになった国際化の現状と課題の要点は以下の通りである。



① 回答を寄せた 111 大学中 43 校（39%）が国際化戦略として世界的エリート大学を志向し、44 校（40%）が海外における大学の評判・知名度を向上させることを志向すると回答した。国際化の戦略に関して、90%以上の大学が目的と実施計画を明示していると回答したが、予算確保

計画や責任の所在については 50%強しか明示していない。留学の受入れ・送り出し、国際間大学間交流については 90%以上の大学が機能・サービスの提供をしているが、外国人研究者支援は約 3 分の 2 の大学しか実施していない。国際的な広報活動のうち明確な指針を設けているは、情報発信に関して設けているとの回答が 77.5%、リクルーティングが 67.6%であったのに対し、マーケティングは 50.5%と少なく、改善の余地があることを示唆している。

前年度の学位取得者に占める受入れの割合は、68 校 (63%) が 10%未満と回答したのに対し、20%以上が 14 校 (14.8%)、うち 3 校が 50%以上と回答した。前年度の卒業生のうち海外留学に参加した学生の割合で最も多かったのは 10%未満との回答で、56 校 (52.6%) がこれに該当した。他方、50%以上が 4 校 (3.7%) だった。

外国語で行われている (語学以外の) 授業科目の割合が 10%未満は 63 校 (57.8%) であったのに対し、40%以上と回答した大学が 18 校 (16.5%) だった。派遣学生に対する外国での勉学の支援に関しては、論文の書き方、プレゼンの仕方、ディスカッションの仕方について 50%以上の大学で支援しているが、ライティングの指導を行っているのは 25.2%にすぎない。

文化的に多様な背景を持つ学生達に対応する設備やサービスのうち、国際寮は 91 校 (82%) が提供し、また、ハラルフードを提供する食堂も 77 校 (69.4%) が運営しているが、学食での食材を明記したメニュー、祈祷室などを提供している大学は 60%未満である。受入れ留学生が到着前する前に提供する情報は入管関係、金銭面、住居面に関しては 90 校 (80%) 以上の大学が情報を提供している。受入れ留学生到着後のオリエンテーションでは 70%以上の大学が入管関係、金銭面、住居面、生活面、学生支援体制、アカデミックサポートについて情報を提供している。しかし、インターンシップや就職支援に関しては半数の大学しか情報を提供していない。海外派遣学生に対しては、80%以上の大学が留学奨学金と学生交流プログラムの情報を提供しているが、学生派遣の実績や単位認定の申請方法について情報提供を行っている大学は 50%に満たない。

在籍教員(研究者)による国際的な刊行物数の在籍教員(研究者)総数比は 33 校 (34.7%) が 40%以上と回答し、18 校 (18.9%) が 20%以上 40%未満と回答した。在籍教員(研究者)による刊行物のうち、在籍教員(研究者)が外国機関の教員(研究者)と共同執筆し、査読のある学術誌に掲載されたものの割合に関して、8 校 (8.4%) が 50%以上と回答し、38 校 (40.0%) の回答が 20%以上 50%未満であった。過去 5 年間に国際的な学術誌に引用された 1 論文当たりの引用回数は、5 回未満との回答が 31 校 (34.4%) で、5 回以上が 59 校 (65.6%) と多数派を占めた。この 3 つの設問に対する回答状況から、今回の調査対象とした大学の多くにおいて研究面の国際化が進捗していることが推察された。

国際化の進捗状況をモニタリングする方法として、自己点検・評価を行っている大学は 97 校 (87.4%) と多数であるものの、質保証機関による評価、国際認証、専門家によるコンサルテーションと回答したのは、それぞれ 56 校 (50.5%)、45 校 (40.5%)、48 校 (43.2%) と相対的に低く、外部評価の導入に課題があると判断された。

5 . 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 2 件)

① 天木勇樹、渡部由紀、新見有紀子、秋庭裕子、川崎妙美「アジアの大学国際化指標構築に向けた量的分析」日本国際教育学会、2018 年。

OTA, Hiroshi & WATABE, Yuki, “Examining Indicators for Evaluation of University Internationalization in Asia-Pacific”, Asia-Pacific Association for International Education, 2019.

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：太田 浩

ローマ字氏名：(OTA, Hiroshi)

所属研究機関名：一橋大学

部局名：森有札高等教育国際流動化機構

職名：教授

研究者番号 (8 桁)：70345461

研究分担者氏名：渡部 由紀
ローマ字氏名：(WATABE, yuki)
所属研究機関名：東北大学
部局名：高度教養教育・学生支援機構
職名：准教授
研究者番号(8 桁): 60600111

研究分担者氏名：秋庭 裕子
ローマ字氏名：(AKIBA, hiroko)
所属研究機関名：一橋大学
部局名：大学院経営管理研究科
職名：講師
研究者番号(8 桁): 10313826

研究分担者氏名：野田 文香
ローマ字氏名：(NODA, ayaka)
所属研究機関名：東北大学
部局名：高度教養教育・学生支援機構
職名：准教授
研究者番号(8 桁): 20513104

研究分担者氏名：天木 勇樹
ローマ字氏名：(AMAKI, yuki)
所属研究機関名：明治大学
部局名：国際連携機構
職名：特任准教授
研究者番号(8 桁): 40712302

研究分担者氏名：金 性希
ローマ字氏名：(KIMU, sonhi)
所属研究機関名：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
部局名：研究開発部
職名：准教授
研究者番号(8 桁): 60568715

研究分担者氏名：新見 有紀子
ローマ字氏名：(SHINMI, yukiko)
所属研究機関名：一橋大学
部局名：大学院法学研究科
職名：講師
研究者番号(8 桁): 90747396

研究分担者氏名：横田 雅弘
ローマ字氏名：(YOKOTA, masahiro)
所属研究機関名：明治大学
部局名：国際日本学部
職名：教授
研究者番号(8 桁): 90200899